

編集後記

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2024-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/2000125

編集後記

令和五年五月より、長く続いた新型コロナウイルスが五類相当に変更となり、恐る恐るではあるが日常を取り戻すべく社会活動が再開された。本学については、年度単位での予定に囚われてしまい、今年度いっぱいには半数余りの授業がオンデマンド形式のまま残ってしまった。世間とのズレが生じてしまった感がある。令和六年度からはほとんどの授業が対面形式に戻り、やっとコロナ以前の状況に戻っていくだろう。

さて、昭和三十九年一月の創刊以来連綿と続いてきた本誌も、今回で第六〇号を迎えることになった。第一号を見ると、さらにその前身として、新制大学発足の昭和二十四年に英文学会と共同で『樟蔭文学』として創刊され、十四年間続いた後に本誌に発展的に移行したとあり、大阪樟蔭女子大学の歴史と歩を一にしてきた雑誌であることが分かる。

記念すべき本号では、中周子名誉教授より、本学園卒業生である田辺聖子の新資料による『新源氏物語』成立の経緯についてのご論考、白川哲郎教授には、やはり新たに発見された終戦を挟む時期の田辺の日記を分析し、田辺の〈知の履歴〉についての新たな考察を行なった論考、奈良崎英穂教授には、現在話題となっている Chat GPT を使って、ホラー作家ならではの視点から実験的な分析を試みるご論考を、それぞれ投稿していただいた。

さらに七〇号を目指し、教育、研究に励んでいきたいと思う。

(国文学科長 田原広史)